

(様式第 10)

防医支第 2 2 8 1 号  
平成 2 9 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣

殿

管理者 防衛医科大学校病院長

防衛医科大学校病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 住 所 | 〒 1 6 2 - 8 8 0 1 東京都新宿区市谷本村町 5 - 1 |
| 氏 名 | 防衛大臣 小野寺 五典                         |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

|           |
|-----------|
| 防衛医科大学校病院 |
|-----------|

3 所在の場所

|                                  |                     |
|----------------------------------|---------------------|
| 〒 3 5 9 - 8 5 1 3 埼玉県所沢市並木 3 - 2 | 電話 (04) 2995 - 1511 |
|----------------------------------|---------------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

|  |
|--|
| ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜<br>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |
|--|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

|   |       |
|---|-------|
| 内科  | ① . 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等<br>① 呼吸器内科                      ② 消化器内科                      ③ 循環器内科                      ④ 腎臓内科<br>⑤ 神経内科                      ⑥ 血液内科                      ⑦ 内分泌内科                      ⑧ 代謝内科<br>⑨ 感染症内科                      ⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      11 リウマチ科 |       |
| 診療実績<br>リウマチ科の診療は、アレルギー疾患内科またはアレルギー科において提供している。   |       |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

|  |         |
|--|---------|
| 外科   | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名<br>①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科<br>5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      ⑦内分泌外科                      ⑧小児外科 |         |
| 診療実績<br>心臓血管外科は、「心臓外科」「血管外科」両方の診療を提供している   |         |

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

|  |
|--|
| ①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科<br>⑦産婦人科    ⑧産科    ⑨婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    ⑫放射線科<br>13放射線診断科    14放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科 |
|--|

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

|  |         |
|--|---------|
| 歯科                                       | (有) ・ 無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名<br>1小児歯科    2矯正歯科    ③口腔外科 |         |
| 歯科の診療体制                                  |         |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

|        |           |         |              |    |
|--------|-----------|---------|--------------|----|
| 1 形成外科 | 2 腫瘍化学療法部 | 3 緩和ケア室 | 4 リハビリテーション部 | 5  |
| 6      | 7         | 8       | 9            | 10 |
| 11     | 12        | 13      | 14           | 15 |
| 16     | 17        | 18      | 19           | 20 |
| 21     |           |         |              |    |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

|     |     |    |    |      |      |
|-----|-----|----|----|------|------|
| 精神  | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般   | 合計   |
| 36床 | 10床 | 床  | 床  | 754床 | 800床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種       | 常 勤  | 非常勤  | 合 計    | 職 種       | 員 数 | 職 種         | 員 数 |
|-----------|------|------|--------|-----------|-----|-------------|-----|
| 医 師       | 208人 | 1.9人 | 209.9人 | 看 護 補 助 者 | 32人 | 診療エックス線技師   | 0人  |
| 歯 科 医 師   | 8人   | 0人   | 8人     | 理 学 療 法 士 | 3人  | 臨床検査技師      | 34人 |
| 薬 剤 師     | 23人  | 0人   | 23人    | 作 業 療 法 士 | 2人  | 衛生検査技師      | 0人  |
| 保 健 師     | 0人   | 0人   | 0人     | 視 能 訓 練 士 | 4人  | そ の 他       | 0人  |
| 助 産 師     | 11人  | 0人   | 11人    | 義 肢 装 具 士 | 0人  | あん摩マッサージ指圧師 | 0人  |
| 看 護 師     | 422人 | 9.9人 | 431.9人 | 臨 床 工 学 士 | 6人  | 医療社会事業従事者   | 3人  |
| 准 看 護 師   | 0人   | 0.7人 | 0.7人   | 栄 養 士     | 1人  | その他の技術員     | 11人 |
| 歯 科 衛 生 士 | 2人   | 0人   | 2人     | 歯 科 技 工 士 | 1人  | 事 務 職 員     | 64人 |
| 管 理 栄 養 士 | 3人   | 0.8人 | 3.8人   | 診療放射線技師   | 23人 | そ の 他 の 職 員 | 32人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名          | 人 数 | 専門医名            | 人 数  |
|---------------|-----|-----------------|------|
| 総合内科専門医       | 27人 | 眼 科 専 門 医       | 8人   |
| 外 科 専 門 医     | 19人 | 耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医 | 7人   |
| 精 神 科 専 門 医   | 10人 | 放 射 線 科 専 門 医   | 8人   |
| 小 児 科 専 門 医   | 13人 | 脳 神 経 外 科 専 門 医 | 8人   |
| 皮 膚 科 専 門 医   | 6人  | 整 形 外 科 専 門 医   | 6人   |
| 泌 尿 器 科 専 門 医 | 11人 | 麻 酔 科 専 門 医     | 13人  |
| 産 婦 人 科 専 門 医 | 6人  | 救 急 科 専 門 医     | 7人   |
|               |     | 合 計             | 149人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (浅野 友彦) 任命年月日 平成29年 4月 1日

|  |
|--|
|  |
|--|

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

|              | 歯科等以外    | 歯科等   | 合計       |
|--------------|----------|-------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 435.4人   | 4.7人  | 440.1人   |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1,107.7人 | 34.4人 | 1,142.1人 |
| 1日当たり平均調剤数   |          |       | 756.1剤   |
| 必要医師数        |          |       | 110人     |
| 必要歯科医師数      |          |       | 3人       |
| 必要薬剤師数       |          |       | 15人      |
| 必要(准)看護師数    |          |       | 260人     |

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名      | 床面積  | 主要構造     | 設 備 概 要   |       |         |         |
|----------|--|----------|---|-------|---------|---------|
| 集中治療室    | 203.2m <sup>2</sup>                                | 鉄筋コンクリート | 病床数   | 11床   | 心電計     | (有)・無   |
|          |  |          | 人工呼吸装置  | (有)・無 | 心細動除去装置 | (有)・無   |
|          |  |          | その他の救急蘇生装置  | (有)・無 | ペースメーカー | (有)・無   |
| 無菌病室等    | [固定式の場合] 床面積 52.3m <sup>2</sup><br>[移動式の場合] 台数 10台 |          | 病床数   | 4床    |         |         |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床積 37.8m <sup>2</sup><br>[共用室の場合] 共用する室名  |          |   |       |         |         |
| 化学検査室    | 252m <sup>2</sup>                                  | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 生化学迅速検体検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、全自動蛍光酵素免疫測定装置、血液ガス分析装置       |       |         |         |
| 細菌検査室    | 270m <sup>2</sup>                                  | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 自動細菌検査装置、全自動抗酸菌培養検査システム、全自動高圧滅菌器、恒温器、CO <sub>2</sub> 培養器 |       |         |         |
| 病理検査室    | 252m <sup>2</sup>                                  | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電子顕微鏡、自動免疫組織化学染色装置、染色封入システム、凍結標本作製システム、密閉式自動固定包埋装置       |       |         |         |
| 病理解剖室    | 164m <sup>2</sup>                                  | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 解剖台、空気清浄排気システム、安全キャビネット、ホルマリン希釈装置、超低温槽                   |       |         |         |
| 研究室      | 18,661m <sup>2</sup>                               | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電子顕微鏡、遺伝子導入装置、定量遺伝子増幅装置、生体分子間相互作用解析装置、質量分析システム           |       |         |         |
| 講義室      | 5,435m <sup>2</sup>                                | 鉄筋コンクリート | 室数  | 13室   | 収容定員    | 1,200人  |
| 図書室      | 3,023m <sup>2</sup>                                | 鉄筋コンクリート | 室数  | 8室    | 蔵書数     | 約19万冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

|      |                       |       |      |         |
|------|-----------------------|-------|------|---------|
|      | 紹介率                   | 98.9% | 逆紹介率 | 47.0%   |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数              |       |      | 14,632人 |
|      | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数  |       |      | 8,493人  |
|      | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 |       |      | 3,219人  |
|      | D：初診の患者の数             |       |      | 18,044人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

| 氏名   | 所属                                       | 委員長<br>(○を付す) | 選定理由              | 利害関係            | 委員の要件<br>該当状況 |
|------|--|---------------|-------------------|-----------------|---------------|
| 齊藤祐次 | 所沢市薬剤師<br>会顧問                            | ○             | 医療に関する見<br>識を有する者 | 有・ <del>無</del> | 1             |
| 大館千歳 | 国立障害者リ<br>ハビリテーシ<br>ョンセンター<br>病院<br>看護部長 |               | 医療に関する見<br>識を有する者 | 有・ <del>無</del> | 1             |
| 島戸圭輔 | 二番町法律事<br>務所<br>(弁護士)                    |               | 法律に関する見<br>識を有する者 | 有・ <del>無</del> | 1             |
| 奈良信和 | 自治体職員                                    |               | 医療を受ける者           | 有・ <del>無</del> | 2             |
| 根本孝一 | 永仁会入間ハ<br>ート病院                           |               | 医療に関する見<br>識を有する者 | <del>有</del> ・無 | 1             |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

|                              |       |
|------------------------------|-------|
| 委員名簿の公表の有無                   | (有)・無 |
| 委員の選定理由の公表の有無                | (有)・無 |
| 公表の方法<br>当院ホームページにおいて公表している。 |       |

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類  | 取扱患者数 |
|--|-------|
| FOLFOX6単独療法における血中5-FU濃度モニタリング情報を用いた5-FU投与量の決定        | 2人    |
| 腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん                                | 0人    |
| 急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定 | 0人    |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |
|  | 人     |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---------|-------|
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |
|         | 人     |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

|           |  |       |   |
|-----------|--|-------|---|
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |
| 医療技術名     |  | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 |  |       |   |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

|    | 疾患名                        | 患者数 |     | 疾患名                  | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1  | 球脊髄性筋萎縮症                   | 7   | 56  | ベーチェット病              | 3   |
| 2  | 筋萎縮性側索硬化症                  | 9   | 57  | 特発性拡張型心筋症            | 1   |
| 3  | 脊髄性筋萎縮症                    |     | 58  | 肥大型心筋症               |     |
| 4  | 原発性側索硬化症                   | 1   | 59  | 拘束型心筋症               | 18  |
| 5  | 進行性核上性麻痺                   |     | 60  | 再生不良性貧血              | 1   |
| 6  | パーキンソン病                    | 6   | 61  | 自己免疫性溶血性貧血           |     |
| 7  | 大脳皮質基底核変性症                 |     | 62  | 発作性夜間ヘモグロビン尿症        | 18  |
| 8  | ハンチントン病                    | 1   | 63  | 特発性血小板減少性紫斑病         | 12  |
| 9  | 神経有棘赤血球症                   | 21  | 64  | 血栓性血小板減少性紫斑病         |     |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病            | 40  | 65  | 原発性免疫不全症候群           |     |
| 11 | 重症筋無力症                     | 15  | 66  | IgA 腎症               |     |
| 12 | 先天性筋無力症候群                  | 39  | 67  | 多発性嚢胞腎               | 1   |
| 13 | 多発性硬化症/視神経脊髄炎              | 17  | 68  | 黄色靱帯骨化症              |     |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー | 4   | 69  | 後縦靱帯骨化症              | 4   |
| 15 | 封入体筋炎                      |     | 70  | 広範脊柱管狭窄症             | 18  |
| 16 | クローウ・深瀬症候群                 |     | 71  | 特発性大腿骨頭壊死症           |     |
| 17 | 多系統萎縮症                     | 4   | 72  | 下垂体性ADH分泌異常症         |     |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)        | 2   | 73  | 下垂体性TSH分泌亢進症         |     |
| 19 | ライゾゾーム病                    |     | 74  | 下垂体性PRL分泌亢進症         |     |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー                | 2   | 75  | クッシング病               |     |
| 21 | ミトコンドリア病                   |     | 76  | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症     |     |
| 22 | もやもや病                      | 1   | 77  | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症      |     |
| 23 | プリオン病                      |     | 78  | 下垂体前葉機能低下症           | 3   |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎                  |     | 79  | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) |     |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症                 |     | 80  | 甲状腺ホルモン不応症           |     |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症                |     | 81  | 先天性副腎皮質酵素欠損症         |     |
| 27 | 特発性基底核石灰化症                 |     | 82  | 先天性副腎低形成症            |     |
| 28 | 全身性アミロイドーシス                | 2   | 83  | アジソン病                |     |
| 29 | ウルリッヒ病                     |     | 84  | サルコイドーシス             | 13  |
| 30 | 遠位型ミオパチー                   |     | 85  | 特発性間質性肺炎             |     |
| 31 | ベスレムミオパチー                  | 1   | 86  | 肺動脈性肺高血圧症            | 20  |
| 32 | 自己食食空胞性ミオパチー               |     | 87  | 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症       |     |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群              |     | 88  | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症         |     |
| 34 | 神経線維腫症                     |     | 89  | リンパ脈管筋腫症             | 5   |
| 35 | 天疱瘡                        | 1   | 90  | 網膜色素変性症              | 3   |
| 36 | 表皮水疱症                      |     | 91  | パッド・キアリ症候群           | 1   |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型)                 |     | 92  | 特発性門脈圧亢進症            | 21  |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群           |     | 93  | 原発性胆汁性肝硬変            | 3   |
| 39 | 中毒性表皮壊死症                   | 3   | 94  | 原発性硬化性胆管炎            | 1   |
| 40 | 高安動脈炎                      |     | 95  | 自己免疫性肝炎              | 5   |
| 41 | 巨細胞性動脈炎                    |     | 96  | クローン病                | 2   |
| 42 | 結節性多発動脈炎                   | 1   | 97  | 潰瘍性大腸炎               | 46  |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎                  | 1   | 98  | 好酸球性消化管疾患            |     |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症                 | 3   | 99  | 慢性特発性偽性腸閉塞症          | 6   |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症             |     | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症      | 6   |
| 46 | 悪性関節リウマチ                   | 86  | 101 | 腸管神経節細胞減少症           | 15  |
| 47 | パージャール病                    | 12  | 102 | ルビンシュタイン・テイビ症候群      | 1   |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群              |     | 103 | CFC症候群               | 11  |
| 49 | 全身性エリテマトーデス                | 9   | 104 | コステロ症候群              |     |
| 50 | 皮膚筋炎/多発性筋炎                 |     | 105 | チャージ症候群              |     |
| 51 | 全身性強皮症                     | 54  | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群       |     |
| 52 | 混合性結合組織病                   | 2   | 107 | 全身型若年性特発性関節炎         |     |
| 53 | シェーグレン症候群                  |     | 108 | TNF受容体関連周期性症候群       | 34  |
| 54 | 成人スチル病                     |     | 109 | 非典型溶血性尿毒症症候群         | 40  |
| 55 | 再発性多発軟骨炎                   | 13  | 110 | ブラウ症候群               | 61  |

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

|     | 疾患名                        | 患者数 |     | 疾患名                | 患者数 |
|-----|----------------------------|-----|-----|--------------------|-----|
| 111 | 先天性ミオパチー                   | 30  | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡         | 1   |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群            | 7   | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 43  |
| 113 | 筋ジストロフィー                   | 4   | 163 | 特発性後天性全身性無汗症       | 16  |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群          |     | 164 | 眼皮膚白皮症             | 1   |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺                 |     | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎           |     |
| 116 | アトピー性脊髄炎                   |     | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫         |     |
| 117 | 脊髄空洞症                      |     | 167 | マルファン症候群           | 1   |
| 118 | 脊髄髄膜瘤                      |     | 168 | エーラス・ダンロス症候群       | 13  |
| 119 | アイザックス症候群                  |     | 169 | メンケス病              | 5   |
| 120 | 遺伝性ジストニア                   | 48  | 170 | オクシピタル・ホーン症候群      | 1   |
| 121 | 神経フェリチン症                   | 15  | 171 | ウィルソン病             |     |
| 122 | 脳表ヘモジデリン沈着症                |     | 172 | 低ホスファターゼ症          |     |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症     |     | 173 | VATER症候群           |     |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症    | 27  | 174 | 那須・ハコラ病            |     |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | 19  | 175 | ウィーバー症候群           |     |
| 126 | ペリー症候群                     | 5   | 176 | コフィン・ローリー症候群       |     |
| 127 | 前頭側頭葉変性症                   |     | 177 | 有馬症候群              |     |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎               |     | 178 | モワット・ウィルソン症候群      |     |
| 129 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症             | 15  | 179 | ウィリアムズ症候群          |     |
| 130 | 先天性無痛無汗症                   |     | 180 | ATR-X症候群           |     |
| 131 | アレキサンダー病                   |     | 181 | クルーゾン症候群           | 12  |
| 132 | 先天性核上性球麻痺                  | 9   | 182 | アペール症候群            |     |
| 133 | メビウス症候群                    |     | 183 | ファイファー症候群          |     |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群        |     | 184 | アントレー・ピクスラー症候群     |     |
| 135 | アイカルディ症候群                  |     | 185 | コフィン・シリス症候群        |     |
| 136 | 片側巨脳症                      |     | 186 | ロスマンド・トムソン症候群      | 5   |
| 137 | 限局性皮質異形成                   |     | 187 | 歌舞伎症候群             | 12  |
| 138 | 神経細胞移動異常症                  |     | 188 | 多脾症候群              | 24  |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症               |     | 189 | 無脾症候群              | 2   |
| 140 | ドラベ症候群                     |     | 190 | 鰓耳腎症候群             |     |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん           |     | 191 | ウェルナー症候群           |     |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん               |     | 192 | コケイン症候群            |     |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん          |     | 193 | プラダー・ウィリ症候群        |     |
| 144 | レノックス・ガストー症候群              | 7   | 194 | ソトス症候群             | 4   |
| 145 | ウエスト症候群                    |     | 195 | ヌーナン症候群            |     |
| 146 | 大田原症候群                     |     | 196 | ヤング・シンブソン症候群       | 24  |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症                 | 38  | 197 | 1p36欠失症候群          |     |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん           | 7   | 198 | 4p欠失症候群            |     |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群           | 1   | 199 | 5p欠失症候群            | 4   |
| 150 | 環状20番染色体症候群                |     | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 |     |
| 151 | ラスムッセン脳炎                   | 42  | 201 | アンジェルマン症候群         | 3   |
| 152 | PCDH19関連症候群                | 1   | 202 | スミス・マギニス症候群        | 1   |
| 153 | 難治頻回部分発作重積型急性脳炎            |     | 203 | 22q11.2欠失症候群       |     |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症      |     | 204 | エマヌエル症候群           | 12  |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群              | 6   | 205 | 脆弱X症候群関連疾患         | 22  |
| 156 | レット症候群                     | 1   | 206 | 脆弱X症候群             | 1   |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群              | 41  | 207 | 総動脈幹遺残症            | 2   |
| 158 | 結節性硬化症                     |     | 208 | 修正大血管転位症           |     |
| 159 | 色素性乾皮症                     |     | 209 | 完全大血管転位症           |     |
| 160 | 先天性魚鱗癬                     | 1   | 210 | 単心室症               | 1   |

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

|     | 疾患名                          | 患者数 |     | 疾患名                        | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群                     |     | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 2   |
| 212 | 三尖弁閉鎖症                       | 93  | 260 | シトステロール血症                  | 1   |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症            | 18  | 261 | タンジール病                     |     |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症              |     | 262 | 原発性高カイトロミクロン血症             | 1   |
| 215 | ファロー四徴症                      |     | 263 | 脳腫黄色腫症                     |     |
| 216 | 両大血管右室起始症                    |     | 264 | 無βリポタンパク血症                 | 1   |
| 217 | エプスタイン病                      | 4   | 265 | 脂肪萎縮症                      |     |
| 218 | アルポート症候群                     | 1   | 266 | 家族性地中海熱                    |     |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群                |     | 267 | 高IgD症候群                    |     |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎                   | 4   | 268 | 中條・西村症候群                   |     |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎                    | 1   | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群    |     |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群                  | 9   | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎                | 1   |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎                | 1   | 271 | 強直性脊椎炎                     |     |
| 224 | 紫斑病性腎炎                       | 9   | 272 | 進行性骨化性線維異形成症               |     |
| 225 | 先天性腎性尿崩症                     | 6   | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症              |     |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型)                 |     | 274 | 骨形成不全症                     |     |
| 227 | オスラー病                        |     | 275 | タナトフォリック骨異形成症              |     |
| 228 | 閉塞性細気管支炎                     |     | 276 | 軟骨無形成症                     | 1   |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)            |     | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病               |     |
| 230 | 肺胞低換気症候群                     | 1   | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)           |     |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症               | 27  | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)       |     |
| 232 | カーニー複合                       | 10  | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)        |     |
| 233 | ウォルフラム症候群                    | 1   | 281 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群       |     |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)   |     | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血              |     |
| 235 | 副甲状腺機能低下症                    | 1   | 283 | 後天性赤芽球癆                    |     |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症                  | 5   | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血           |     |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症                |     | 285 | ファンconi貧血                  |     |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症             |     | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血                  |     |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症             | 52  | 287 | エプスタイン症候群                  |     |
| 240 | フェニルケトン尿症                    | 47  | 288 | 自己免疫性出血病XIII               |     |
| 241 | 高チロシン血症1型                    | 16  | 289 | クロンカイト・カナダ症候群              |     |
| 242 | 高チロシン血症2型                    | 3   | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症               |     |
| 243 | 高チロシン血症3型                    | 31  | 291 | ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)       |     |
| 244 | メーブルシロップ尿症                   |     | 292 | 総排泄腔外反症                    |     |
| 245 | プロピオン酸血症                     |     | 293 | 総排泄腔遺残                     |     |
| 246 | メチルマロン酸血症                    |     | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア                 | 1   |
| 247 | イソ吉草酸血症                      | 6   | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫                  |     |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症            | 44  | 296 | 胆道閉鎖症                      |     |
| 249 | グルタル酸血症1型                    | 9   | 297 | アラジール症候群                   |     |
| 250 | グルタル酸血症2型                    | 11  | 298 | 遺伝性膀胱炎                     |     |
| 251 | 尿素サイクル異常症                    | 14  | 299 | 嚢胞性線維症                     |     |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症                   | 45  | 300 | IgG4関連疾患                   |     |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全                    | 31  | 301 | 黄斑ジストロフィー                  |     |
| 254 | ポルフィリン症                      | 16  | 302 | レーベル遺伝性視神経症                | 2   |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症                | 8   | 303 | アッシャー症候群                   |     |
| 256 | 筋型糖原病                        | 7   | 304 | 若年発症型両側性感音難聴               |     |
| 257 | 肝型糖原病                        | 3   | 305 | 遅発性内リンパ水腫                  |     |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 3   | 306 | 好酸球性副鼻腔炎                   |     |

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類                            | 施設基準の種類 |
|------------------------------------|---------|
| ・地域歯科診療支援病院歯科初診料                   | ・       |
| ・歯科外来診療環境体制加算                      | ・       |
| ・特定機能病院入院基本料 一般 10対1入院基本料 看護必要度加算1 | ・       |
| ・特定機能病院入院基本料 精神 15対1入院基本料          | ・       |
| ・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)                 | ・       |
| ・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算              | ・       |
| ・超急性期脳卒中加算                         | ・       |
| ・妊産婦緊急搬送入院加算                       | ・       |
| ・診療録管理体制加算2                        | ・       |
| ・療養環境加算                            | ・       |
| ・重症者等療養環境特別加算                      | ・       |
| ・無菌治療室管理加算1                        | ・       |
| ・無菌治療室管理加算2                        | ・       |
| ・緩和ケア診療加算                          | ・       |
| ・医療安全対策加算1                         | ・       |
| ・感染防止対策加算1                         | ・       |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算                     | ・       |
| ・ハイリスク妊娠管理加算                       | ・       |
| ・ハイリスク分娩管理加算                       | ・       |
| ・データ提出加算2                          | ・       |
| ・救命救急入院料2                          | ・       |
| ・特定集中治療室管理料3                       | ・       |
| ・小児入院医療管理料4                        | ・       |
| ・                                  | ・       |
| ・                                  | ・       |
| ・                                  | ・       |

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類                       | 施設基準の種類  |
|-------------------------------|--|
| ・高度難聴指導管理料                    | ・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)                |
| ・糖尿病合併症管理料                    | ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)                         |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料                 | ・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)                        |
| ・がん患者指導管理料1                   | ・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 |
| ・がん患者指導管理料2                   | ・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術                      |
| ・外来緩和ケア管理料                    | ・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2                       |
| ・地域連携診療計画管理料                  | ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)                              |
| ・がん治療連携計画策定料                  | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術                                |
| ・薬剤管理指導料                      | ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術                          |
| ・医療機器安全管理料1                   | ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)       |
| ・歯科治療総合医療管理料                  | ・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)                                  |
| ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・腹腔鏡下肝切除術  |
| ・検体検査管理加算(Ⅰ)                  | ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術   |
| ・検体検査管理加算(Ⅳ)                  | ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術                                       |
| ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算     | ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術  |
| ・神経学的検査                       | ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)                                  |
| ・小児食物アレルギー負荷検査                | ・同種死体腎移植術  |
| ・画像診断管理加算1                    | ・生体腎移植術  |
| ・CT撮影及びMRI撮影                  | ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術  |
| ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算                 | ・人工尿道括約筋植込・置換術   |
| ・外来化学療法加算1                    | ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術   |
| ・無菌製剤処理料                      | ・麻酔管理料(Ⅰ)  |
| ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)          | ・麻酔管理料(Ⅱ)  |
| ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)             | ・外来放射線治療加算   |
| ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)             | ・高エネルギー放射線治療   |
| ・透析液水質確保加算1                   | ・1回線量増加加算  |



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------|----------|
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |
| ・        | ・        |

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況                | 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。<br>② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に4回程度  |
| 剖検の状況                               | 剖検症例数      35例      /      剖検率      8.9%                  |

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部門    | 金額         | 補助元又は委託元   |
|---|--------|---------|------------|------------|
| 治験開始にむけた前立腺癌に適用する光音響画像診断技術開発                        | 石原 美弥  | 医用工学    | 26,000,000 | (補委) 厚労科研費 |
| GATA2欠損症由来iPS細胞を用いた新規分化因子の同定                        | 野々山 恵章 | 小児科学    | 3,952,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 自己炎症性疾患の治療標的分子同定および薬剤開発基盤整備                         | 野々山 恵章 | 小児科学    | 1,040,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 原発性免疫不全症に対するex vivo遺伝子・細胞治療の治験実施体制の構築と人材育成に関する研究    | 野々山 恵章 | 小児科学    | 1,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 原発性免疫不全症の診断困難例に対する新規責任遺伝子の同定と病態解明                   | 野々山 恵章 | 小児科学    | 1,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植法の確立                             | 野々山 恵章 | 小児科学    | 650,000    | (補委) 厚労科研費 |
| タウリンによるMELAS脳卒中様発作再発抑制療法の実用化                        | 海田 賢一  | 内科学     | 500,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築                    | 海田 賢一  | 内科学     | 350,000    | (補委) 厚労科研費 |
| ギラン・バレー症候群に対するエクシズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験   | 海田 賢一  | 内科学     | 603,920    | (補委) 厚労科研費 |
| 直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究                      | 上野 秀樹  | 外科学     | 200,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 超高齢者社会における治癒困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究      | 上野秀樹   | 外科学     | 300,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 早期乳がんに対するイメージガイド下ラジオ波熱焼灼療法の標準化に係る多施設共同試験            | 津田 均   | 病態病理学   | 700,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験                  | 津田 均   | 病態病理学   | 1,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験                  | 高野 政志  | 腫瘍化学療法部 | 1,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究                        | 高瀬 凡平  | 集中治療部   | 1,125,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の実用化を目指す研究                        | 木下 学   | 免疫・微生物学 | 1,125,000  | (補委) 厚労科研費 |
| アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいた革新的な核酸医薬外用療法の医師指導型臨床研究 | 佐藤 貴浩  | 皮膚科学    | 500,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 高次脳機能障害支援における血液バイオマーカーの活用に関する研究                     | 守本 祐司  | 分子生体制御学 | 620,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 新型インフルエンザ等への対応に関する研究                                | 川名 明彦  | 内科学     | 2,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 頭頸部癌全国症例登録システムの構築と臓器温存治療のエビデンス創出                    | 塩谷 彰浩  | 耳鼻咽喉科   | 3,250,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 原発性免疫不全症候群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究           | 野々山 恵章 | 小児科学    | 6,000,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 自己炎症疾患とその類縁疾患の診療基準、重傷度分類、診療ガイドライン確立に関する研究           | 野々山 恵章 | 小児科学    | 700,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 中小医療機関向け医療機器保守点検のあり方に関する研究                          | 石原 美弥  | 医用工学    | 2,700,000  | (補委) 厚労科研費 |
| 難治性炎症性腸管障害に関する調査研究                                  | 穂苅 量太  | 内科学     | 500,000    | (補委) 厚労科研費 |
| 腎・泌尿器系の希少・難治性疾患群に関する診断基準・診療ガイドラインの確立                | 四ノ宮 成祥 | 分子生体制御学 | 1,000,000  | (補委) 厚労科研費 |



| 研究課題名                                    | 研究者氏名  | 所属部門               | 金額        | 補助元又は委託元   |
|--|--------|--------------------|-----------|------------|
| 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究                        | 佐藤 貴浩  | 皮膚科学               | 500,000   | (補委) 厚労科研費 |
| 東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究                 | 重村 淳   | 精神科学               | 1,000,000 | (補委) 厚労科研費 |
| 医療安全支援センターにおける業務の評価及び質の向上に関する研究          | 長川 真治  | 防衛医学               | 200,000   | (補委) 厚労科研費 |
| 成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究                 | 津田 均   | 病態病理学              | 1,000,000 | (補委) 厚労科研費 |
| ふなずし由来新規ラクトバシラス属菌が有する強力な抗炎症効果の作用機序       | 岡田 義清  | 内科学                | 3,949     | (補委) 文科科研費 |
| 尿解析による腎疾患の診断に関する検討                       | 櫻井 裕   | 衛生学公衆衛生学           | 3,904     | (補委) 文科科研費 |
| 発達中の脳における麻酔薬の神経毒性に関する包括的研究               | 風間 富栄  | 麻酔学                | 750,285   | (補委) 文科科研費 |
| 分子遺伝学的解析による痛風の病態解明とゲノムテラーメイド医療への応用       | 松尾 洋孝  | 分子生体制御学            | 2,331,821 | (補委) 文科科研費 |
| バイオテンプレートプロセスによる電磁波応答材料の開発               | 鎌田 香織  | 化学                 | 1,214,102 | (補委) 文科科研費 |
| 薬物療法により病状進行となる高悪性度乳癌の予測に役立つ分子マーカーの検討     | 津田 均   | 病態病理学              | 68,021    | (補委) 文科科研費 |
| ナノシートとマイクロスキンを用いた重症熱傷救命のための治療開発研究        | 齋藤 大蔵  | 防衛医学研究センター外傷研究部門   | 127,300   | (補委) 文科科研費 |
| 大腸癌における新たな病理的指標とNomogramを用いた予後予測システムの確立  | 上野 秀樹  | 外科学                | 605,659   | (補委) 文科科研費 |
| 小児がんの子供への病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの看護介入        | 山下 早苗  | 小児看護学              | 557,446   | (補委) 文科科研費 |
| 頭部外傷後の脳虚血侵襲時に出現する神経幹細胞の性質及び動的変化の病理組織学的検討 | 原田 一樹  | 法医学                | 1,687,937 | (補委) 文科科研費 |
| 会陰アプローチによる仙骨前隙を利用した腹腔鏡下手術                | 谷水 長丸  | 外科学                | 479,236   | (補委) 文科科研費 |
| サイレント・マジョリティ(声なき声)を可視化する「生活再建過程学」の構築     | 秋富 真司  | 救急部                | 400,000   | (補委) 文科科研費 |
| 先天性免疫不全症由来iPS細胞を用いた新規免疫系細胞分化因子の同定        | 野々山 恵章 | 小児科学               | 6,207,390 | (補委) 文科科研費 |
| 光線力学効果に基づく感染制御と創傷治癒促進による新しい褥瘡治療          | 守本 祐司  | 分子生体制御学            | 8,092,013 | (補委) 文科科研費 |
| 小腸を介したコレステロール逆転送を活性化するポリフェノールの網羅的探索      | 池脇 克則  | 内科学                | 100,000   | (補委) 文科科研費 |
| 脂質異常症による神経新生障害の機序解明                      | 石塚 俊晶  | 薬理学                | 1,824,397 | (補委) 文科科研費 |
| 死別を体験した子どもの心理・社会的サポートの構築と検証に関する研究        | 高橋 聡美  | 精神看護学              | 1,902,607 | (補委) 文科科研費 |
| 非celiacグルテン過敏性腸症の実態調査-過敏性腸症候群との関連に注目して-  | 渡邊 知佳子 | 内科学                | 628,561   | (補委) 文科科研費 |
| NASH発症における自然免疫防御反応とKupffer細胞の機能分化の解析     | 中島 弘幸  | 免疫・微生物学            | 91,896    | (補委) 文科科研費 |
| 神経芽細胞腫におけるNIPA蛋白とMYCN蛋白の相互作用についての研究      | 川口 裕之  | 小児科学               | 1,439,449 | (補委) 文科科研費 |
| 東日本大震災の災害救援業務において救援者が被る心理的影響に関する縦断研究     | 長峯 正典  | 防衛医学研究センター行動科学研究部門 | 1,322,745 | (補委) 文科科研費 |
| StageIII大腸癌患者における術後補助化学療法の効果予測因子の抽出      | 長谷 和生  | 外科学                | 514,343   | (補委) 文科科研費 |
| 小胞体ストレス誘導による膀胱癌新規治療法の開発                  | 佐藤 全伯  | 泌尿器科学              | 977,658   | (補委) 文科科研費 |

計27件

| 研究課題名                                   | 研究者氏名  | 所属部門                      | 金額        | 補助元又は委託元 |
|---|--------|---------------------------|-----------|----------|
| 蝸牛有毛細胞・らせん神経節細胞の遅発性脱落メカニズムの解明           | 水足 邦雄  | 病院耳鼻咽喉科                   | 1,211,953 | 補委 文科科研費 |
| センチネルリンパ節を標的とした新たな頭頸部癌機能温存治療の開発         | 荒木 幸仁  | 耳鼻咽喉科学                    | 3,121,377 | 補委 文科科研費 |
| 活性化ビタミンD3外用剤のマイボーム腺機能不全(MGD)治療への応用      | 伊藤 正孝  | 再生発生物学                    | 21,048    | 補委 文科科研費 |
| ビタミンDの前眼部上皮における働きに関する細胞生物学的研究           | 伊藤 正孝  | 解剖学                       | 2,827,367 | 補委 文科科研費 |
| 侵襲時の生体防御不全対策としての貪食細胞活性化                 | 宮崎 裕美  | 防衛医学研究センター外傷研究部門          | 1,906,956 | 補委 文科科研費 |
| 「渴き」への爽快感のある「潤い」は是が非か?                  | 田代 晃正  | 生理学                       | 206,722   | 補委 文科科研費 |
| ルーブリック評価を取り入れたカリキュラムとその効果に関する研究         | 北川 明   | 精神看護学                     | 1,516,127 | 補委 文科科研費 |
| 血糖値変動の実態解明による慢性疾患予防プログラムの構築             | 櫻井 裕   | 衛生学公衆衛生学                  | 200,000   | 補委 文科科研費 |
| 血糖値変動の実態解明による慢性疾患予防プログラムの構築             | 西田 育弘  | 生理学                       | 123,213   | 補委 文科科研費 |
| 胎児発育における母胎のインスリン抵抗性とパーゼ活性の役割の解明         | 西岡 笑子  | 看護学科                      | 20,000    | 補委 文科科研費 |
| 新規抗酸化剤を用いた新しい放射線傷害軽減対策                  | 木下 学   | 免疫・微生物学                   | 2,481,768 | 補委 文科科研費 |
| 光線力学療法によるHelicobacter pylori除菌に関する研究    | 平木 修一  | 外科学                       | 1,441,205 | 補委 文科科研費 |
| 医療施設における高齢者看護の質評価指標の開発                  | 松井 美帆  | 老年看護学                     | 1,000,762 | 補委 文科科研費 |
| 敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究           | 木下 学   | 免疫・微生物学                   | 3,556     | 補委 文科科研費 |
| 敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究           | 平木 修一  | 外科学                       | 457       | 補委 文科科研費 |
| 敗血症性免疫不全対策としての血液浄化療法の意義に関する研究           | 青笹 李文  | 病院外科                      | 86,784    | 補委 文科科研費 |
| 直接的分化誘導法による網膜視細胞作製技術の応用－変性過程のin vitro解析 | 小牟田 縁  | 病院内科                      | 864,969   | 補委 文科科研費 |
| グローバルな感染症等生物学的脅威を巡る新たな紛争領域の研究           | 四ノ宮 成祥 | 分子生体制御学                   | 517,867   | 補委 文科科研費 |
| 細胞の活動を反映する光散乱パターンを用いた脳梗塞イメージング法の開発      | 川内 聡子  | 防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門 | 1,442,037 | 補委 文科科研費 |
| 光と音響の生体内伝播理論に基づく胎児への酸素供給モニタリングシステムの開発   | 大川 晋平  | 医用工学                      | 2,753,493 | 補委 文科科研費 |
| 死後髄液から死亡前発症のけいれん発作の有無を検出する法医診断技術の基盤的研究  | 金武 潤   | 法医学                       | 74,073    | 補委 文科科研費 |
| 遊離コレステロール由来シグナル制御に基づいた、脂肪肝炎・肝臓癌新規治療法の確立 | 富田 謙吾  | 病院内科                      | 2,994,360 | 補委 文科科研費 |
| 胎児性白血病の発祥・進展・自然治癒と造血微小環境の関連に関する研究       | 川口 裕之  | 小児科学                      | 228,855   | 補委 文科科研費 |
| 遺伝・環境要因相互作用のPTSDへの影響とその病態の解明            | 戸田 裕之  | 精神科学                      | 1,706,025 | 補委 文科科研費 |
| 精神科治療が脳神経細胞内オートファジー信号に与える影響の探索          | 丹生谷 正史 | 病院精神科                     | 2,061,571 | 補委 文科科研費 |
| 超分子デバイスを用いた胃癌腹膜転移診断と光線力学療法の効果に関する研究     | 辻本 広紀  | 病院外科                      | 2,173,160 | 補委 文科科研費 |
| 脳外科手術の術中画像診断における光音響画像化技術の有用性の検証         | 大谷 直樹  | 病院脳神経外科                   | 1,993,093 | 補委 文科科研費 |

計27件

| 研究課題名                                     | 研究者氏名   | 所属部門                      | 金額        | 補助元又は委託元 |
|---|---------|---------------------------|-----------|----------|
| 水溶液αリポ酸誘導体の脳保護効果と抗酸化能:スピン共鳴解析による検討        | 西田 育弘   | 生理学                       | 102,782   | 補委 文科科研費 |
| 麻酔薬の発達期脳神経回路形成に与える影響の検討                   | 児玉 光厳   | 病院麻酔科                     | 1,800,000 | 補委 文科科研費 |
| ナノシートを用いた脂肪由来幹細胞移植の研究                     | 青木 伸峰   | 病院形成外科                    | 3,159,949 | 補委 文科科研費 |
| ジェンダーの視点からみた介護が就労に及ぼす影響および社会的損失           | 西岡 笑子   | 母性看護学                     | 106,854   | 補委 文科科研費 |
| 早産児を育てる父親の育児支援プログラムの開発                    | 中富 利香   | 小児看護学                     | 1,429,937 | 補委 文科科研費 |
| ミャンマーの照葉樹林帯における生活科学に関する資源利用特性と植生の関係       | 朝比奈 はるか | 病院救急部                     | 1,854,186 | 補委 文科科研費 |
| 金ナノ粒子の分散・凝集挙動を分光特性で捉え、関節軟骨の潤滑機能の評価に活かす    | 石原 美弥   | 医用工学                      | 2,797,647 | 補委 文科科研費 |
| ヒトiPS細胞の奇形腫を介した分化細胞の誘導法開発と病態解明への応用        | 松村 耕治   | 共同利用研究施設                  | 1,492,663 | 補委 文科科研費 |
| 分子遺伝学的解析を活用したヒト腸管上皮における尿酸排泄機構の解明          | 松尾 洋孝   | 分子生体制御学                   | 2,416,655 | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 山本 順司   | 外科学                       | 100,000   | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 長谷 和生   | 外科学                       | 2,066     | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 谷水 長丸   | 外科学                       | 100,000   | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 木下 学    | 免疫・微生物学                   | 100,000   | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 川内 聡子   | 防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門 | 82,072    | 補委 文科科研費 |
| 電気電導体繊維の渦電流変化を利用した閉創前遺残ガーゼ感知システムの構築       | 佐藤 俊一   | 防衛医学研究センター生体情報・治療システム研究部門 | 91,306    | 補委 文科科研費 |
| EAOH原因分子APTXのDNA二重鎖切断修復機能と免疫神経細胞分化障害の解明   | 野々山 恵章  | 小児科学                      | 1,448,772 | 補委 文科科研費 |
| インプラント光線力学免疫療法による難治性がん治療                  | 青笹 季文   | 病院外科                      | 2,243,059 | 補委 文科科研費 |
| 看護師のための夜勤時多重課題対策指針の開発ー夜間の患者安全と生活の質保証に向けてー | 宮首 由美子  | 基礎看護学                     | 60,000    | 補委 文科科研費 |
| MRリソ管イメージングが先導するリンパ浮腫の診断・治療イノベーション        | 曾我 茂義   | 放射線医学                     | 923,382   | 補委 文科科研費 |
| 細胞膜上でのADAM28活性調節機構の解析                     | 望月 早月   | 外科学                       | 784,034   | 補委 文科科研費 |
| 音声の病態分析を用いた治療効果のフォローアップ技術の開発              | 松尾 洋孝   | 分子生体制御学                   | 650,000   | 補委 文科科研費 |
| 東日本大震災後の喪失悲嘆に対する中長期の心理社会的支援プログラムの開発と検証    | 高橋 里美   | 看護学科                      | 250,000   | 補委 文科科研費 |
| c-Metアロステリック/触媒部位を標的とした新規デュアル・インヒビターの創製   | 四ノ宮 成祥  | 分子生体制御学                   | 8,000,000 | 補委 文科科研費 |
| 臨界期における全身麻酔薬の神経発達制御メカニズムへ及ぼす影響            | 佐藤 泰司   | 薬理学                       | 5,410,000 | 補委 文科科研費 |
| 混合病棟における周産期の安全と質保証を担保するための看護人員配置に関する研究    | 西岡 笑子   | 母性看護学                     | 50,000    | 補委 文科科研費 |
| 開発途上国における環境汚染の小児健康影響に関する国際共同研究            | 西岡 笑子   | 母性看護学                     | 50,000    | 補委 文科科研費 |
| ヒトiPS細胞と小型霊長類コモンマーモセットを用いた蝸牛有毛細胞再生の前臨床検討  | 水足 邦雄   | 病院耳鼻咽喉科                   | 200,000   | 補委 文科科研費 |

計27件

| 研究課題名                                    | 研究者氏名  | 所属部門    | 金額        | 補助元又は委託元  |
|--|--------|---------|-----------|-----------|
| 外来及び一般病棟看護師が行う多量飲酒者へのアセスメント及び介入の実態       | 内野 小百合 | 精神看護学   | 1,000,000 | (補) 文科科研費 |
| 児童虐待通告と看護師－家族関係に関する混合研究                  | 浦出 美緒  | 小児看護学   | 231,221   | (補) 文科科研費 |
| 被災地域に暮らす高齢者の健康支援のためのコミュニティ・エンパワメントモデルの開発 | 早野 貴美子 | 防衛看護学   | 1,000,000 | (補) 文科科研費 |
| 手足への軽度の体性感覚刺激が自律神経系に及ぼす効果                | 煙山 健仁  | 生理学     | 2,050,000 | (補) 文科科研費 |
| 経口的喉頭機能温手術後の音声・嚥下機能評価法の確立と臨床応用           | 谷合 信一  | 病院耳鼻咽喉科 | 1,300,000 | (補) 文科科研費 |
| 肝固有Kupffer細胞のコレステロール代謝における役割             | 中島 弘幸  | 免疫・微生物学 | 1,300,000 | (補) 文科科研費 |
| ヒステロール血症における脂質代謝異常の解明－トレーサー研究からのアプローチ－   | 池脇 克則  | 内科学     | 1,500,000 | (補) 文科科研費 |
| 川崎病の病態における好中球細胞外トラップ(NETs)の関与とその制御機構の解明  | 竹下 誠一郎 | 看護学科付   | 2,200,000 | (補) 文科科研費 |
| 汗腺機能障害からみた分子標的薬による皮膚障害の病態解析と新規治療法の開発     | 西澤 綾   | 病院皮膚科   | 900,000   | (補) 文科科研費 |
| 慢性痒疹の多様性に基づいた病態の解明と痒みに関する研究              | 佐藤 貴浩  | 皮膚科学    | 1,400,000 | (補) 文科科研費 |
| 脂肪性肝疾患の光計測                               | 山本 順司  | 外科学     | 1,800,000 | (補) 文科科研費 |
| 椎間板変性機序の解明に基づく新たな治療戦略の開発研究               | 千葉 一裕  | 病院整形外科  | 1,800,000 | (補) 文科科研費 |
| HiCEP法を用いた特異的腎細胞癌マーカーの同定と測定法の開発          | 伊藤 敬一  | 泌尿器科学   | 1,300,000 | (補) 文科科研費 |
| 反回神経過誤再生に対する新しい治療法の開発                    | 富藤 雅之  | 病院耳鼻咽喉科 | 1,700,000 | (補) 文科科研費 |
| 糖尿病網膜症の発症におけるTh細胞の関与およびTh細胞を中心とした病態の解明   | 竹内 大   | 眼科学     | 1,500,000 | (補) 文科科研費 |
| 止血能を有した救命蘇生用人工血液カクテルの開発                  | 萩沢 康介  | 生理学     | 2,520,000 | (補) 文科科研費 |
| 身体組成分析を活用したドライウェイト設定時における共同目標設定効果の研究     | 梶田 広明  | 成人看護学   | 1,400,000 | (補) 文科科研費 |
| 一般病棟における終末期ケアを尊重する組織風土醸成プログラムの構築         | 伴 佳子   | 成人看護学   | 1,800,000 | (補) 文科科研費 |
| 中山間地域における妊産婦の健康支援サービスの構築                 | 坂本 めぐみ | 母性看護学   | 3,300,000 | (補) 文科科研費 |
| 初めて親となる夫婦のパートナーシップ促進を支援する情報提供プログラムの開発    | 三上 由美子 | 母性看護学   | 1,500,000 | (補) 文科科研費 |
| 重症者支援ネットワークを活用した機能強化型訪問看護教育プログラムの開発研究    | 小森 直美  | 地域看護学   | 800,000   | (補) 文科科研費 |
| 大学生のビンジドリンキングの予防に向けた教育プログラムの開発           | 川井田 恭子 | 防衛看護学   | 3,380,000 | (補) 文科科研費 |
| 地域包括支援センターの保健師による地域診断活動の推進要因の分析－量的・質的な分析 | 松永 洋子  | 地域看護学   | 2,951,000 | (補) 文科科研費 |
| 地域包括支援センターの保健師による地域診断活動の推進要因の分析－量的・質的な分析 | 野口 立彦  | 生物学     | 200,000   | (補) 文科科研費 |
| 上皮間葉転換に着目した新規バイオマーカー探索による脳、腎糖尿病疾患の治療法開発  | 丹生谷 正史 | 病院精神科   | 200,000   | (補) 文科科研費 |
| 重症敗血症におけるCRPの役割と治療効果                     | 木下 学   | 免疫・微生物学 | 100,000   | (補) 文科科研費 |
| 動的荷重心動揺軌跡分析に基づく運動技能評価プログラムの作成            | 松村 秋芳  | 生物学     | 200,000   | (補) 文科科研費 |

計27件

| 研究課題名                                    | 研究者氏名  | 所属部門                    | 金額         | 補助元又は委託元   |
|--|--------|-------------------------|------------|------------|
| デオキシアデノシンの神経毒性と分解酵素の神経保護作用の解明            | 太田 宏之  | 生理学                     | 1,000,000  | (補委) 文科科研費 |
| 看護師の「働きがい」尺度の開発                          | 安酸 史子  | 成人看護学                   | 100,000    | (補委) 文科科研費 |
| 看護師の「働きがい」尺度の開発                          | 北川 明   | 精神看護学                   | 100,000    | (補委) 文科科研費 |
| 天然アミノ酸を利用して動脈硬化を診断・治療する                  | 守本 祐司  | 分子生体制御学                 | 1,300,000  | (補委) 文科科研費 |
| 加齢に伴う脂肪組織のアディポカイン分泌の変動とサルコペニア肥満との関連性について | 服部 秀美  | 防衛医学研究センター医療工学研究部門      | 1,500,000  | (補委) 文科科研費 |
| 孤独死防止へ向けての高齢者の心理特性に着目したアセスメント・ツールの開発     | 山崎 久美子 | 看護学科付                   | 1,790,000  | (補委) 文科科研費 |
| microRNAの画期的な迅速、高感度検出法の開発                | 武井 史恵  | 進学課程                    | 1,600,000  | (補委) 文科科研費 |
| 肝特異的自律会合型キャリア粒子の開発と応用                    | 中村 伸吾  | 防衛医学研究センター医療工学研究部門      | 1,860,000  | (補委) 文科科研費 |
| テラヘルツ波照射による細胞機能制御技術の開発                   | 楡引 俊宏  | 医用工学                    | 3,570,000  | (補委) 文科科研費 |
| 全寮制の大学における髄膜炎菌保菌調査                       | 金山 敦宏  | 防衛医学研究センター広域感染症学・制御研究部門 | 1,000,000  | (補委) 文科科研費 |
| ヒト頭部外傷事例における脳弓下器官損傷の病理組織学的検討             | 原田 一樹  | 法医学                     | 400,000    | (補委) 文科科研費 |
| 腫瘍溶解ウイルス療法に伴う免疫誘導による抗腫瘍効果の検討             | 塩谷 彰浩  | 耳鼻咽喉科学                  | 1,500,000  | (補委) 文科科研費 |
| 緊急時に独居高齢者が自助できる自治体モデルの構築                 | 山岸 里美  | 防衛看護学                   | 1,400,000  | (補委) 文科科研費 |
| 国際平和協力活動の医療要員が経験する困難の構造化とサポートプログラムの開発    | 尾立 篤子  | 基礎看護学                   | 1,200,000  | (補委) 文科科研費 |
| DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み    | 守本 裕司  | 分子生体制御学                 | 300,000    | (補委) 文科科研費 |
| DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み    | 辻本 広紀  | 医療安全・感染対策部              | 50,000     | (補委) 文科科研費 |
| DDS型超分子デバイスを用いた光線力学療法による難治性小児がん根治への試み    | 木下 学   | 免疫・微生物学                 | 75,000     | (補委) 文科科研費 |
| 光音響技術を用いた血液酸素飽和度分布画像化装置の高精度化及び性能評価       | 平沢 壮   | 医用工学                    | 1,700,000  | (補委) 文科科研費 |
| 網様体コリン作動性介在ニューロンによる運動ニューロン調節機構の形態学的解析    | 松井 利康  | 解剖学                     | 1,100,000  | (補委) 文科科研費 |
| 3次元金属ナノ構造量産プロセスとキラル機能探索                  | 鎌田 香織  | 化学                      | 2,000,000  | (補委) 文科科研費 |
| 新規血清尿酸値制御因子を標的とした機能性食品成分の探索              | 松尾 洋孝  | 分子生体制御学                 | 1,200,000  | (補委) 文科科研費 |
| 医用応用を目指した生体内の光の伝播の数理解析                   | 大川 晋平  | 医用工学                    | 1,100,000  | (補委) 文科科研費 |
| 元素分析による身元不明遺体の出身地域推定の検討                  | 染田 英利  | 解剖学                     | 10,120,000 | (補委) 文科科研費 |
| 受精卵への顕微注入に拠らない簡便な動物個体ゲノム操作法の開発           | 中村 伸吾  | 防衛医学研究センター医療工学研究部門      | 8,980,000  | (補委) 文科科研費 |
| 新しい3次元配向性コラーゲンを用いた難治性尿道狭窄症に対する尿道再生技術の開発  | 堀口 明男  | 病院泌尿器科                  | 5,700,000  | (補委) 文科科研費 |
| 発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成    | 安酸 史子  | 成人看護学                   | 9,440,000  | (補委) 文科科研費 |
| 独自のノックダウンマウス作製法の応用と新たな実験系の提案             | 中村 伸吾  | 防衛医学研究センター医療工学研究部門      | 300,000    | (補委) 文科科研費 |

計27件

| 研究課題名   | 研究者氏名  | 所属部門     | 金額         | 補助元又は委託元 |       |
|---|--------|----------|------------|----------|-------|
| 中枢神経系悪性リンパ腫に特異的な遺伝子異常の機能解析と新規分子標的治療の開発                                    | 富山 新太  | 病院脳神経外科  | 200,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| ヘルスリテラシーとストレス対処力の形成により生涯学び成長する介入モデルの開発                                    | 安酸 史子  | 成人看護学    | 100,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| 患者－看護師相互作用プロセスにおけるケア効果を引き出す最適プロセス設計の開発                                    | 早野 貴美子 | 防衛看護学    | 400,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| 体内で分解し残存異物とならない新規マグネシウムデバイス開発と各種疾患治療への応用                                  | 木下 学   | 免疫・微生物学  | 400,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬と抗HIV薬の併用による腎癌新規治療法の開発                                     | 浅野 貴子  | 泌尿器科学    | 1,100,000  | 補<br>委   | 文科科研費 |
| 顎骨骨髄炎への応用を目指した新規抗菌性ハイブリッド生体材料の創製  | 村上 馨   | 病院歯科口腔外科 | 1,200,000  | 補<br>委   | 文科科研費 |
| 機能性プローブに基づく生体深部光音響イメージング技術の確立: activatableプローブの開発研究とin vivo可視化イメージング技術の開発 | 石原 美弥  | 医用工学     | 11,000,000 | 補<br>委   | 文科科研費 |
| バイオメディカル光イメージングにおける数理モデルと画像再構成  | 大川 晋平  | 医用工学     | 515,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| バイオテンプレート技術による金属マイクロコイルの物性開発及び藻類ナノホールアレイを応用した分散型制御チップの開発                  | 鎌田 香織  | 化学       | 1,000,000  | 補<br>委   | 文科科研費 |
| 血流解析のために必要な先天性心疾患の光音響効果を利用した生体情報計測システムの開発                                 | 石原 美弥  | 医用工学     | 700,000    | 補<br>委   | 文科科研費 |
| ストレスチェック用デバイス開発に関する研究   | 守本 裕司  | 分子生体制御学  | 2,000,000  | 補<br>委   | 文科科研費 |

計11件  
合計171件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名             | 筆頭著者の特定機能病院における所属 | 題名  | 雑誌名・出版年月等   | 論文種別   |
|----|-------------------|-------------------|---|---|--------|
| 1  | Takeuchi Masaru   | 眼科学               | Evaluation of Efficacy and Safety of Latanoprost/Timolol versus Travoprost/Timolol Fixed Combinations for Ocular Hypertension Associated with Uveitis.                  | Ocular immunology and inflammation. 25(1)/105-110, 2017             | Others |
| 2  | Takeuchi Masaru   | 眼科学               | Association of High-Mobility Group Box-1 With Th Cell-Related Cytokines in the Vitreous of Ocular Sarcoidosis Patients.   | Investigative Ophthalmology & Visual Science. 58(1)/528-537, 2017   | Others |
| 3  | Namba T           | 内科学               | Arterial Stiffness Is Significantly Associated With Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Patients With Cardiovascular Disease.                                     | Int Heart J. 2016 Dec 2;57(6):729-735                               | Others |
| 4  | Masaki N          | 内科学               | Usefulness of the d-ROMs test for prediction of cardiovascular events.  | Int J Cardiol. 2016 Nov 1;222:226-32                                | Others |
| 5  | Shiraishi Y       | 内科学               | Elevation of Derivatives of Reactive Oxygen Metabolites Elevated in Young "Disaster Responders" in Hypertension due to Great East Japan Earthquake.                     | Int Heart J. 2016;57(1):61-6  | Others |
| 6  | Yoshikawa Kenichi | 内科学               | Psychological stress exacerbates NSAID-induced small bowel injury by inducing changes in intestinal microbiota and permeability via glucocorticoid receptor signaling.  | J Gastroenterol. 2017 Jan;52(1):61-71.                              | Others |
| 7  | Komoto Shunsuke   | 内科学               | Pregnancy outcome in women with inflammatory bowel disease treated with anti-tumor necrosis factor and/or thiopurine therapy: a multicenter study from Japan.           | Intest Res. 2016 Apr;14(2):139-45.                                  | Others |
| 8  | Sato Hirokazu     | 内科学               | Platelet interaction with lymphatics aggravates intestinal inflammation by suppressing lymphangiogenesis.   | Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2016 Aug 1;311(2):G276-85. | Others |
| 9  | Sato Hirokazu     | 内科学               | Antibiotics Suppress Activation of Intestinal Mucosal Mast Cells and Reduce Dietary Lipid Absorption in Sprague-Dawley Rats.  | Gastroenterology. 2016 Nov;151(5):923-932.                          | Others |
| 10 | Masato Kadoya     | 内科学               | Repeated treatments with rituximab in a patient with amyloid-like IgM deposition neuropathy.  | Neurology: Neuroimmunology & Neuroinflammation 3(3): e220, 2016     | Others |
| 11 | Masato Kadoya     | 内科学               | Cancer association and anti-HMGCR antibody-positive idiopathic inflammatory myopathies.   | Neurology: Neuroimmunology & Neuroinflammation 3(6): e290, 2016     | Others |
| 12 | Masato Kadoya     | 内科学               | IgG4 anti-neurofascin155 antibodies in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy: clinical significance and diagnostic utility of a conventional assay. | Journal of Neuroimmunology 301: 16-22, 2016                         | Others |
| 13 | Yakushiji E       | 内科学               | Massive Hemoptysis due to Right Inferior Phrenic Artery-to-Right Pulmonary Artery Fistula in the Right Middle Lobe of the Lung.   | Intern Med.56(6):687-689, 2017                                      | Others |

計13件

|    |                |         |   |  |        |
|----|----------------|---------|---|--|--------|
| 14 | Nakaya K       | 内科学     | A New Frontier for Reverse Cholesterol Transport: The Impact of Intestinal Microbiota on Reverse Cholesterol Transport.   | Arterioscler Thromb Vasc Biol. 37(3):385-386, 2017.    | Others |
| 15 | Harada-Shiba M | 内科学     | Efficacy and Safety of Lomitapide in Japanese Patients with Homozygous Familial Hypercholesterolemia.   | J Atheroscler Thromb. 24(4):402-411, 2017              | Others |
| 16 | Kadoya M       | 内科学     | IgG4 anti-neurofascin155 antibodies in chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy: Clinical significance and diagnostic utility of a conventional assay. | J Neuroimmunol. 301:16-22, 2016                        | Others |
| 17 | Arai H         | 内科学     | Efficacy and safety of the cholesteryl ester transfer protein inhibitor anacetrapib in Japanese patients with heterozygous familial hypercholesterolemia.               | Atherosclerosis. 249:215-23, 2016                      | Others |
| 18 | Kadoya M       | 内科学     | Repeated treatments with rituximab in a patient with amyloid-like IgM deposition neuropathy.  | Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 3(3):e220, 2016      | Others |
| 19 | Koba S         | 内科学     | Beneficial Effects of Exercise-Based Cardiac Rehabilitation on High-Density Lipoprotein-Mediated Cholesterol Efflux Capacity in Patients with Acute Coronary Syndrome.  | J Atheroscler Thromb. 23(7):865-77, 2016               | Others |
| 20 | Yakushiji E    | 内科学     | Probucol Oxidized Products, Spiroquinone and Diphenoquinone, Promote Reverse Cholesterol Transport in Mice.   | Arterioscler Thromb Vasc Biol. 36(4):591-7, 2016       | Others |
| 21 | Yosuke Ono     | 総合臨床部   | A rabbit model of fatal hypothyroidism mimicking "myxedema coma" established by microscopic total thyroidectomy   | Endocrine Journal 63(6):pp.523-532 2016.06             | Others |
| 22 | Yosuke Ono     | 総合臨床部   | Clinical characteristics and outcomes of myxedema coma: Analysis of a national inpatient database in Japan  | Journal of Epidemiology 27:pp.117-122 2017.01          | Others |
| 23 | Yosuke Ono     | 総合臨床部   | Usefulness of urinary glucose excretion after oral glucose tolerance testing to detect insulin secretion failure before the onset of diabetes mellitus                  | Endocrine Journal 64(1):p75-81,2017.01                 | Others |
| 24 | Yosuke Ono     | 総合臨床部   | Clinical features and practice patterns of treatment for adrenal crisis: a nationwide cross-sectional study in Japan  | European Journal of Endocrinology 176:p329-337,2017.01 | Others |
| 25 | Masashi Takano | 腫瘍化学療法部 | Is modified radical hysterectomy needed for patients with clinical stage I/II endometrial cancers?: A historical-control study  | Oncology:in press                                      | Others |
| 26 | Masashi Takano | 腫瘍化学療法部 | Dedifferentiated endometrioid adenocarcinoma of the uterus: a case report and review of adjuvant therapeutic modalities.  | Eur J Gynaecol Oncol 37(3):426-429,2016                | Others |
| 27 | Masashi Takano | 腫瘍化学療法部 | The impact of UGT1A1 genotype upon toxicities of combination with low-dose irinotecan plus platinum.  | Asia-Pacific J Clin Oncol 12:115-124,2016              | Others |
| 28 | Masashi Takano | 腫瘍化学療法部 | Immunocytochemical Utility of Claudin-4 Versus Those of Ber-EP4 and MOC-31 in Effusion Cytology   | Diagnostic Cytopathology 44(6):499-504,2016            | Others |

計15件



|    |                    |         |   |  |        |
|----|--------------------|---------|---|--|--------|
| 29 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Prolonged overall survival in stage IV patient with malignant transformation from ovarian mature cystic teratoma by combination therapy including radiotherapy. | Eur J Gynaecol Oncol :in press                               | Others |
| 30 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Effect of ARID1A/BAF250a expression on carcinogenesis and clinicopathological factors in pure-type clear cell adenocarcinoma of the ovary                       | Molecular and Clinical Oncology 5(4) :395-401, 2016          | Others |
| 31 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Relation between Birth Weight and Intraoperative Hemorrhage during Cesarean Section in Pregnancy with Placenta Previa.  | PLoS ONE 11(11) : e0167332-e0167332                          | Others |
| 32 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Predictive factors for long survival after recurrence in ovarian cancers  | Molecular and Clinical Oncology :in press                    | Others |
| 33 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Prolonged stable disease using pazopanib in recurrent and refractory uterine leiomyosarcoma:a proposal of“pazopanib beyond progression”                         | Eur J Gynaecol Oncol :in press                               | Others |
| 34 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Inhibition of autophagy protein LC3A as a therapeutic target in ovarian clear cell carcinomas.  | Journal of Gynecologic Oncology :in press                    | Others |
| 35 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Small foci of serous component as a predictor of recurrence and prognosis for stage IA endometrial carcinomas.  | Oncology :in press   | Others |
| 36 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Pregnancy with Asymptomatic Uterine Complete Rupture after Uterine Artery Embolization for Postpartum Hemorrhage  | Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology:in press      | Others |
| 37 | Masashi Takano     | 腫瘍化学療法部 | Is there any predictor for hypersensitivity reactions in gynecologic cancer patients treated with paclitaxel-based therapy?                                     | Cancer Chemotherapy and Pharmacology :in press               | Others |
| 38 | Ueno Hideki        | 外科学     | Prevalence of laparoscopic surgical treatment and its clinical outcomes in patients with familial adenomatous polyposis in Japan.                               | International Journal of Clinical Oncology 21(4):713-22,2016 | Others |
| 39 | Yamadera Masato    | 外科学     | Small intestinal Crohn's disease with hepatic portal venous gas: a case report.   | Surgical Case Reports 2(1):66,2016                           | Others |
| 40 | Tsunenari Takazumi | 外科学     | Synchronous neuroendocrine tumors in both the pancreas and ileum: A case report.  | International Journal of Surgery Case Reports 22:47-50,2016  | Others |
| 41 | Kanematsu Kyohei   | 外科学     | Weekly paclitaxel therapy for gastric cancer in patients with renal dysfunction: A case report.   | Ann Med Surg (Lond). 1;11:26-8,2016                          | Others |
| 42 | Nishikawa Makoto   | 外科学     | The impact of postoperative adjuvant chemotherapy on the development of nonalcoholic fatty liver disease after pancreatoduodenectomy.                           | Journal of Surgical Research. 205(1):127-35,2016             | Others |
| 43 | Kouzu Keita        | 外科学     | Efficacy of totally laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer in elderly patients.   | Molecular and Clinical Oncology 4(6):976-982,2016            | Others |

計15件

|    |                    |        |  |   |        |
|----|--------------------|--------|--|---|--------|
| 44 | Harada Manabu      | 外科学    | Successful laparoscopic repair of an incarcerated Bochdalek hernia associated with increased intra-abdominal pressure during use of blow gun: A case report.         | International Journal of Surgery Case Reports 23:131-3,2016 | Others |
| 45 | Tsujimoto Hironori | 外科学    | In vivo evaluation of a modified linear stapling device designed to facilitate accurate pathologic examination of the surgical margin.                               | Gastric Cancer 19(2):666-9,2016                             | Others |
| 46 | Kawamura Yoichi    | 小児科学   | Urinary Lactate Dehydrogenase (LDH) Activity and its Isozyme Patterns in Kawasaki Disease.   | Int J Pediatr. 2017, 2017:4162597.                          | Others |
| 47 | Kawamura Yoichi    | 小児科学   | The Combined Usefulness of the Neutrophil-to-Lymphocyte and Platelet-to-lymphocyte Ratios in Predicting Intravenous Immunoglobulin Resistance with Kawasaki Disease. | J Pediatr. 2016, 178:281-284.e1.                            | Others |
| 48 | Zaha Kiyotaka      | 小児科学   | DNM1L-related encephalopathy in infancy with Leigh syndrome-like phenotype and suppression-burst.  | Clin Genet. 2016, 90:472-474.                               | Others |
| 49 | Tsujita Yuki       | 小児科学   | Phosphatase and tensin homolog (PTEN) mutation can cause activated phosphatidylinositol 3-kinase $\delta$ syndrome-like immunodeficiency.                            | J Allergy Clin Immunol. 2016, 138:1672-1680.e10.            | Others |
| 50 | Enomoto Shingo     | 精神科学   | Increased expression of endocytosis-Related proteins in rat hippocampus following 10-day electroconvulsive seizure treatment.  | Neuroscience Letters 624: p.85-91, 2016                     | Others |
| 51 | Mogi Taichi        | 精神科学   | Clinically mild encephalopathy with a reversible splenic lesion and nonconvulsive status epilepticus in aschizophrenic patient with neuroleptic malignant syndrome.  | Psychiatry and clinical Neurosciences 71(3): p.212, 2017    | Others |
| 52 | Shigemura Jun      | 精神科学   | Peacekeepers deserve more mental health research and care.   | BJPsych Open 2: e3-4, 2016                                  | Others |
| 53 | Masatoshi Amako    | 整形外科科学 | Incidence and Characteristics of Traumatic Shoulder Instability in Japanese Military Cadets  | Military Medicine 181(6):577-581,2016                       | Others |
| 54 | Michiro Susa       | 整形外科科学 | CT guided cryoablation for locally recurrent or metastatic bone and soft tissue tumor:initial experience   | BMC Cancer. 16(1):798,2016                                  | Others |
| 55 | Kenta Taniguchi    | 整形外科科学 | Thymoma Metastasis to the Semimembranosus Muscle   | Case Report in Oncology. 10(1):21-26,2017                   | Others |
| 56 | Chiaki Sato        | 整形外科科学 | Chondrosarcoma of the small toe in an adult with Down syndrome.  | Journal of Orthopaedic Science 2016.6.E-pub                 | Others |
| 57 | Sato Akinori       | 泌尿器科学  | Ritonavir and ixazomib kill bladder cancer cells by causing ubiquitinated protein accumulation.  | Cancer Sci. 2017 Mar 25. doi: 10.1111/cas.13242.            | Others |
| 58 | Isono Makoto       | 泌尿器科学  | Checkpoint kinase inhibitor AZD7762 strongly sensitises urothelial carcinoma cells to gemcitabine  | J Exp Clin Cancer Res. 2017; 36: 1.                         | Others |

計15件

|    |                   |        |   |  |             |
|----|-------------------|--------|---|--|-------------|
| 59 | Harutake Sawazaki | 泌尿器科学  | Increased nucleophosmin expression is a strong predictor of recurrence and prognosis in patients with NOM0 upper tract urothelial carcinoma undergoing radical nephroureterectomy.                | World J Urol. 2016 Nov 24  | Others      |
| 60 | Isono Makoto      | 泌尿器科学  | Ritonavir Interacts With Belinostat to Cause Endoplasmic Reticulum Stress and Histone Acetylation in Renal Cancer Cells.  | Oncol Res. 2016;24(5):327-335.   | Others      |
| 61 | Isono Makoto      | 泌尿器科学  | A Case of Long-term Survival of Advanced Paratesticular Rhabdomyosarcoma Treated With a Multimodal Therapy Including a Combination of Cyclophosphamide, Vincristine, Doxorubicin and Dacarbazine. | Isono M, Sato A, Asano T. Urol Case Rep. 2016 Apr 22;7:3-6.                              | Case report |
| 62 | Tasaki Shinsuke   | 泌尿器科学  | Preoperative serum docosahexaenoic acid level predicts prognosis of renal cell carcinoma.   | Mol Clin Oncol. 2016 Jul;5(1):69-73.   | Others      |
| 63 | Keiichi Ito       | 泌尿器科学  | Preoperative risk factors for extraurothelial recurrence in NOM0 patients with renal pelvic cancer treated by radical nephroureterectomy.   | Mol Clin Oncol. 2016 Apr;4(4):530-536.   | Others      |
| 64 | Hashimoto Takashi | 皮膚科    | Persistent supraveneous erythematous eruption-like changes from antibiotics   | J Dermatol 43(9): 1093-1094, 2016.   | Others      |
| 65 | Ono Koji          | 皮膚科    | Accumulation of C-eractive protein in basal keratinocytes of normal skin  | J Dermatol Sci 83(1): 26-33, 2016  | Others      |
| 66 | Muto Junichiro    | 皮膚科    | Deposition of elafin in the involved vascular wall of neutrophil-mediated cutaneous vasculitis  | J Eur Acad Dermatol Venereol. 30: 1544-1549, 2016.                                       | Others      |
| 67 | Yoshii Ayako      | 皮膚科    | Cutaneous macrobubulinosis: successful treatment with rituximab.  | J Eur Acad Dermatol Venereol 31(1): e30-31, 2017.  | Others      |
| 68 | Hashimoto Takashi | 皮膚科    | Papulonodular mucinosis with interstitial granulomatous-like histological changes in a male patient with systemic lupus erythematosus   | J Dermatol 44 (3): 349-350, 2017.  | Others      |
| 69 | Chikazawa Sakiko  | 皮膚科    | Long-term, widespread infection of molluscum contagiosum with atopic dermatitis-like skin manifestations  | Acta Derm Venereol 97(2): 291-292, 2017.   | Others      |
| 70 | Munetsugu Takichi | 皮膚科    | Cold-induced hyperhidrosis: possible association with hyper-IgE syndrome  | Int J Dermatol 56(2): 42-43, 2017.   | Others      |
| 71 | Suzuki Hiroshi    | 耳鼻咽喉科学 | Value of a novel PGA-collagen tube on recurrent laryngeal nerve regeneration in a rat model.  | Laryngoscope 126(7)233-239,2016  | Others      |
| 72 | Tanaka Shingo     | 耳鼻咽喉科学 | Vocal function after transoral videolaryngoscopic surgery (TOVS) for hypopharyngeal and supraglottic cancer.  | Acta Otolaryngol. doi: 10.1080/00016489.2016.1266509. Epub 2016 Dec 15                   | Others      |
| 73 | Tamura Atsushi    | 耳鼻咽喉科学 | Photobiomodulation rescues the cochlea from noise-induced hearing loss via upregulating nuclear factor $\kappa$ B expression in rats.   | Brain Res. 2016 Sep 1;1646:467-74. doi: 10.1016/j.brainres.2016.06.031. Epub 2016 Jun 21 | Others      |

計15件

|    |                   |        |   |  |        |
|----|-------------------|--------|---|--|--------|
| 74 | Kamide Daisuke    | 耳鼻咽喉科学 | Selective activator protein-1 inhibitor T-5224 prevents lymph node metastasis in an oral cancer model.  | Cancer Sci. 2016 May;107(5):666-73   | Others |
| 75 | Tomifuji Masayuki | 耳鼻咽喉科学 | Salvage Transoral Videolaryngoscopic Surgery for radiorecurrent hypopharyngeal and supraglottic cancer.   | Auris Nasus Larynx. doi: 10.1016/j.anl.2016.10.006. Epub 2016 Nov 14.            | Others |
| 76 | Yamashita Taku    | 耳鼻咽喉科学 | Clinical features and treatment outcomes of Japanese head and neck cancer patients with a second primary cancer.  | Asia Pac J Clin Oncol. 2016 Oct 26. doi: 10.1111/ajco.12599.                     | Others |
| 77 | Tamura Atsushi    | 耳鼻咽喉科学 | Correlation of climbing perception and eye movements during daytime and nighttime takeoffs using a flight simulator.  | Acta Otolaryngol. 2016;136(5):433-8.   | Others |
| 78 | Aizawa Tetsushi   | 形成外科   | Linear separation of toe syndactyly with preserved subcutaneous vascular network skin grafts  | Ann Plast Surg. 2017 Mar;78(3):311-314.  | Others |
| 79 | Aizawa Tetsushi   | 形成外科   | Novel microvascular anastomosis between a single vessel and two downstream vessels  | European Journal of Plastic Surgery October 2016, Volume 39, Issue 5, pp 371-374 | Others |
| 80 | Takabayashi Yuki  | 形成外科   | Enhanced effect of fibroblast growth factor-2-containing dalteparin/protamine nanoparticles on hair growth.   | Clin Cosmet Investig Dermatol. 2016 May 17;9:127-34.                             | Others |
| 81 | Kenichi Masui     | 麻酔学    | In Response to 'Inconsistency Between Different Methods Indicate Statistical Significance'  | Anesthesia and Analgesia 124(2): p.695-696, 2017.02                              | Others |
| 82 | Sayaka Ishigaki   | 麻酔学    | Influence of preoperative oral rehydration on arterial plasma rocuronium concentrations and neuromuscular blocking effects: A randomised controlled trial                     | European Journal of Anaesthesiology 34(1): p.16-21, 2017.01                      | Others |
| 83 | Sayako Tsutsui    | 麻酔学    | Rapid Infusion of Hydroxyethyl Starch 70/0.5 but not Acetate Ringer's Solution Decreases the Plasma Concentration of Propofol during Target-controlled Infusion               | Anesthesiology 125(2): p.304-12, 2016.08   | Others |
| 84 | Sho Ogata         | 検査部    | Immunohistochemical study of mucins in human intestinal spirochetosis   | Human Pathology 62(3): 126-133, 2017   | Others |
| 85 | Sho Ogata         | 検査部    | Immunohistochemical detection of human intestinal spirochetosis   | Human Pathology 58(12): 128-133, 2016  | Others |
| 86 | Nakanishi Kuniaki | 検査部    | Peritoneal malignant mesothelioma (PMM), and primary peritoneal serous carcinoma (PPSC) and reactive mesothelial hyperplasia (RMH) of the peritoneum. Immunohistochemical and | Journal of Clinical Pathology 69(8):706-12, 2016                                 | Others |
| 87 | Tomohiro Oda      | 検査部    | Immunocytochemical utility of claudin-4 versus those of Ber-EP4 and MOC-31 in effusion cytology   | Diagnostic Cytopathology 44(6):499-504, 2016                                     | Others |
| 88 | Sei Kuguna        | 産婦人科学  | Appropriate timing of blood sampling for blood gas analysis in the ventilated rabbit  | J Surg Res. 2016 Dec;206(2):325-336.   | Others |

計15件

|    |                 |        |   |  |        |
|----|-----------------|--------|---|--|--------|
| 89 | Miyazaki Hiromi | 外傷研究部門 | Fibrinogen $\gamma$ -Chain Peptide-Coated Adenosine 5' Diphosphate-Encapsulated Liposomes Rescue Mice From Lethal Blast Lung Injury via Adenosine Signaling.  | Critical Care Medicine 44(9): p.e827-e837, 2016.09           | Others |
| 90 | Miyazaki Hiromi | 外傷研究部門 | Cerebral Artery Blood Flow and Oxygenation in the Frontal Lobe Region in Response to a Judo Chokehold (Shimewaza)   | J Exerc Sports Orthop 3(1): p.1-8, 2016.06                   | Others |
| 91 | Miyazaki Hiromi | 外傷研究部門 | Abdominal Infection Suppresses the Number and Activity of Intrahepatic Natural Killer Cells and Promotes Tumor Growth in a Murine Liver Metastasis Model.   | Annals of Surgical Oncology 23(Suppl 2): p.S257-265, 2016.02 | Others |
| 92 | Saitoh Daizoh   | 外傷研究部門 | Fibrinogen $\gamma$ -Chain Peptide-Coated Adenosine 5' Diphosphate-Encapsulated Liposomes Rescue Mice From Lethal Blast Lung Injury via Adenosine Signaling   | Critical Care Medicine 44(9): p.e827-e837, 2016.09           | Others |
| 93 | Saitoh Daizoh   | 外傷研究部門 | Abdominal Infection Suppresses the Number and Activity of Intrahepatic Natural Killer Cells and Promotes Tumor Growth in a Murine Liver Metastasis Model.   | Annals of Surgical Oncology 23(Suppl 2): p.S257-265, 2016.02 | Others |
| 94 | Tomura Satoshi  | 外傷研究部門 | Retrograde Suction Decompression Through Direct Puncture of the Common Carotid Artery for Paraclinoid Aneurysm  | Acta Neurochir Suppl 123: p.51-56, 2016.09                   | Others |
| 95 | Tomura Satoshi  | 外傷研究部門 | Usefulness of extradural optic nerve decompression via trans-SOF approach for treatment of traumatic optic nerve injury: surgical procedures and techniques from experience with 8 consecutive patients | World Neurosurgery 90: p.357-363, 2016.06                    | Others |
| 96 | Tomura Satoshi  | 外傷研究部門 | Usefulness of suction decompression method combined with extradural temporopolar approach during clipping of complicated internal carotid artery aneurysm   | World Neurosurgery 90: p.293-299, 2016.06                    | Others |
| 97 | Kawahara Yo     | 救急部    | Direct intrahepatic portocaval shunt for refractory hepatic hydrothorax: a case report  | Acute Medicine & Surgery                                     |        |

計9件  
合計97件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の特定機能<br>病院における所属 | 題名 | 雑誌名・<br>出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|-----------------------|----|---------------|------|
| 1  |       |                       |    |               |      |
| 2  |       |                       |    |               |      |
| 3  |       |                       |    |               |      |
| ～  |       |                       |    |               |      |

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

|   |      |
|---|------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況                            | 有・無  |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況                        | 有・無  |
| ・ 手順書の主な内容<br>申請手続、委員会審査及び分科会審査手続、審査結果の通知 |      |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況                            | 年11回 |

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

|   |   |
|---|---|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況                         | 有・無   |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況  | 有・無   |
| ・ 規定の主な内容： 利益相反の審議をするための委員会（委員の任期、決議方法）、申請手続、判定結果の通知要領及び守秘義務等 |   |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況                         | 年0回<br>事前確認によって（事前確認要員4名全員の判定）明らかに利益相反が認められないと判定された為） |

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況            | 年1回 |
| ・ 研修の主な内容<br>日本学術振興会「研究倫理eラーニング」 |     |

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医師である幹部自衛官（医官）に対して、国際貢献や災害時活動など国家的緊急事態における突発的な疾病・傷害に対する幅広い初期診療能力を習得させることを目標としている。災害初期診療における重症外傷患者に対して系統的な理論に基づいた診断と初期治療を迅速かつ的確に行う能力を身につけるとともに大量傷者発生に対応できる基本的能力を獲得させる。また専門領域以外の領域における初期診療に必要な基本的な知識を修得させ、積極的に救急医療及び災害医療の研修機会を持たせる。

2 研修の実績

|        |     |
|--------|-----|
| 研修医の人数 | 94人 |
|--------|-----|

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科        | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|------------|-----|--------|------|
| 足立 健    | 内科         | 教授  | 28年    |      |
| 熊谷 裕生   | 内科         | 教授  | 35年    |      |
| 穂刈 量太   | 内科         | 教授  | 26年    |      |
| 川名 明彦   | 内科         | 教授  | 33年    |      |
| 木村 文彦   | 内科         | 教授  | 33年    |      |
| 池脇 克則   | 内科         | 教授  | 33年    |      |
| 山本 順司   | 外科         | 教授  | 36年    |      |
| 上野 秀樹   | 外科         | 教授  | 27年    |      |
| 田口 眞一   | 外科         | 教授  | 33年    |      |
| 吉野 相英   | 精神科        | 教授  | 33年    |      |
| 野々山 恵章  | 小児科        | 教授  | 35年    |      |
| 千葉 一裕   | 整形外科       | 教授  | 34年    |      |
| 森 健太郎   | 脳神経外科      | 教授  | 35年    |      |
| 佐藤 貴浩   | 皮膚科        | 教授  | 32年    |      |
| 浅野 友彦   | 泌尿器科       | 教授  | 36年    |      |
| 古谷 健一   | 産科婦人科      | 教授  | 38年    |      |
| 竹内 大    | 眼科         | 教授  | 28年    |      |
| 塩谷 彰浩   | 耳鼻咽喉科      | 教授  | 30年    |      |
| 加治 辰美   | 放射線科       | 教授  | 38年    |      |
| 池田 健彦   | 麻酔科        | 教授  | 27年    |      |
| 池内 尚司   | 救急救命センター   | 教授  | 37年    |      |
| 斎藤 大蔵   | 外傷研究部門     | 教授  | 34年    |      |
| 清澤 智晴   | 形成外科       | 教授  | 35年    |      |
| 中西 邦昭   | 検査部        | 教授  | 37年    |      |
| 小林 龍生   | リハビリテーション部 | 教授  | 36年    |      |
| 田中 祐司   | 総合臨床部      | 教授  | 33年    |      |
| 辻 明     | 輸血・血液浄化療法部 | 教授  | 35年    |      |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| 計画・現状の別                                    |                           | 1. 計画  | ②. 現状     |   |  |
|--|---------------------------|--|-----------|---|--|
| 管理責任者氏名                                    |                           | 病院長 浅野 友彦  |           |   |  |
| 管理担当者氏名                                    |                           | 運営企画課長 大久保 進 運営支援課長 白井 克昌<br>材料部長 竹内 大 医療情報部長 池脇 克則 薬剤部長 松本 直人<br>医療安全推進室長 新本 弘 感染対策室長 横江 秀隆 |           |   |  |
|  |                           | 保管場所   | 管理方法      |   |  |
| 診療に関する諸記録                                  | 規則第二十一条の三第二項に掲げる事項        | 病院日誌   | 運営企画課     | カルテ等の病歴資料は、医療情報部で一括管理している。外来カルテは診療科毎、入院カルテは入院期間毎に作成され、電算機に登録されており、保存期間は10年である。医療記録利用規則により院外への退出は禁止している。 |  |
|  |                           | 各科診療日誌   | 医療情報部     |   |  |
|  |                           | 処方せん   |           |   |  |
|  |                           | 手術記録   |           |   |  |
|  |                           | 看護記録   |           |   |  |
|  |                           | 検査所見記録   |           |   |  |
|  |                           | エックス線写真  |           |   |  |
|  |                           | 紹介状  |           |   |  |
| 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書            |                           |  |           |   |  |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録                           | 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項        | 従業者数を明らかにする帳簿  | 運営支援課     | 文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。  |  |
|  |                           | 高度の医療の提供の実績  | 運営支援課     |   |  |
|  |                           | 高度の医療技術の開発及び評価の実績  | 運営支援課     |   |  |
|  |                           | 高度の医療の研修の実績  |           |   |  |
|  |                           | 閲覧実績   | 運営支援課     |   |  |
|  |                           | 紹介患者に対する医療提供の実績  | 運営支援課     |   |  |
|  | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 |  | 運営支援課・薬剤部 |   |  |
|  | 規則第一条の十一第一項に掲げる事項         | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況   | 医療安全推進室   |   | 文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。 |
|  |                           | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況  | 医療安全推進室   |   |  |
|  |                           | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況   | 医療安全推進室   |   |  |
| 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 |                           | 医療安全推進室  |           |   |  |

|   |                             |   | 保管場所  | 管理方法   |
|---|-----------------------------|---|-------|--|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録  | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況   | 感染対策室 | 文書管理規則等に基づき、各担当課において作成文書・分類番号・保存期間を入力し、管理している。 |
|   |                             | 院内感染対策のための委員会の開催状況  | 感染対策室 |  |
|   |                             | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況  | 感染対策室 |  |
|   |                             | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況                             | 感染対策室 |  |
|   |                             | 医薬品安全管理責任者の配置状況   | 薬剤部   |  |
|   |                             | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況  | 薬剤部   |  |
|   |                             | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況                              | 薬剤部   |  |
|   |                             | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部   |  |
|   |                             | 医療機器安全管理責任者の配置状況  | 材料部   |  |
|   |                             | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況   | 材料部   |  |
|   |                             | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況   | 材料部   |  |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 材料部                         |   |       |  |

|  |                               | 保管場所                                      | 管理方法    |
|--|-------------------------------|---|---------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録                                 | 規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況                            | 医療安全推進室 |
|  |                               | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況                        | 感染対策室   |
|  |                               | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況                         | 薬剤部     |
|  |                               | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況                 | 医療安全推進室 |
|  |                               | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況                       | 医療安全推進室 |
|  |                               | 医療安全管理部門の設置状況                             | 医療安全推進室 |
|  |                               | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況                |         |
|  |                               | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況        | 薬剤部     |
|  |                               | 監査委員会の設置状況                                | 医療安全推進室 |
|  |                               | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況               | 医療安全推進室 |
|  |                               | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況        |         |
|  |                               | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況        |         |
|  |                               | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 医療安全推進室 |
|  |                               | 職員研修の実施状況                                 | 医療安全推進室 |
| 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医療安全推進室                       |   |         |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

|   |                                |       |
|---|--------------------------------|-------|
| 計画・現状の別   | 1. 計画                          | ②. 現状 |
| 閲覧責任者氏名   | 病院長 浅野 友彦                      |       |
| 閲覧担当者氏名   | 各診療科部長・運営支援課長・運営企画課長・材料部長・薬剤部長 |       |
| 閲覧の求めに応じる場所   | 病院第3会議室                        |       |
| 閲覧の手続の概要<br>閲覧者の閲覧希望の内容に応じて、該当する各閲覧担当者は諸記録を所定の閲覧場所へ集積して、閲覧に供する。 |                                |       |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

|           |        |      |
|-----------|--------|------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延      | 0件   |
| 閲覧者別      | 医師     | 延 0件 |
|           | 歯科医師   | 延 0件 |
|           | 国      | 延 0件 |
|           | 地方公共団体 | 延 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|   |       |
|---|-------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況  | ☑・無   |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>安全管理システムの構築、医療従事者の研鑽、安全管理組織の充実、インシデントレポートの推進、医療事故発生時の対応方針、患者家族との情報交換、患者相談窓口の設置、内部通報窓口の設置</p>   |       |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況  |       |
| <p>・ 設置の有無 ( ☑・無 )</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関すること</p> <p>(2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関すること</p> <p>(3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関すること</p> <p>(4) 医療事故発生時の対応要領に関すること</p> <p>(5) 安全管理体制確保のために必要な職員の教育研修制度に関すること</p> |       |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況  | 年 2 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 医療安全研修の実践</p> <p>(2) 安全対策プロジェクトチームの取り組み</p> <p>(3) 採用時オリエンテーション</p> <p>(4) 院外講師による医療安全に関する講演</p> <p>(5) 麻薬施用者講習会</p>   |       |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況  |       |
| <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( ☑・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 合併症事例に係る報告の義務化</p> <p>(2) 院内暴言・暴力に係る報告制度</p> <p>(3) 安全対策プロジェクトチーム及び小委員会において改善策を検討及び検証のための病棟ラウンド</p> <p>(4) 院内全死亡例の報告の義務化</p>  |       |

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

|   |         |
|---|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況   | ☑・無     |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染の未然防止、発生時の迅速適切な対処を定めた基本方針、感染対策委員会、感染対策室及び感染管理チームの設置、各診療科等の感染対策管理のための責任者の配置、感染対策マニュアルの整備、院内感染発生時の対処、各種報告の義務、職員研修の実施及び患者等との情報共有</p>  |         |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況  | 年 1 2 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関すること<br/>(2) 院内感染管理体制に関すること<br/>(3) 集団発生するおそれのある感染症の対策に関すること</p>   |         |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況  | 年 2 回   |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 感染対策研修の実施<br/>(2) 周術期抗菌薬適正使用への取り組み<br/>(3) 院外講師を招聘し、医療関連感染対策講習会を開催<br/>(4) 採用時オリエンテーション<br/>(5) 手指衛生と個人防護具着脱について部署別研修</p>  |         |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況   |         |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ☑・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 携帯版の感染対策マニュアルを作成し全職員に配布、携帯を義務付<br/>(2) イベント発生に即応した薬剤耐性菌やインフルエンザ等に関する職員教育の実施<br/>(3) ATP 拭き取り検査器等を使用した実地指導の実施<br/>(4) 反復したラウンドを実施し遵守状況を数値可視化<br/>(5) 部署毎に手指衛生使用量を計測し、1入院患者1日あたりの手指衛生回数をフィードバック<br/>(6) 蓄尿の届け出、許可制を導入</p> |         |

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |       |
|--|-------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況  | ☑・無   |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況   | 年 5 回 |
| ・ 研修の主な内容：<br>(1) 輸液の感染管理(2回)<br>(2) 麻薬施用者講習会<br>(3) 薬剤に関する勉強会<br>(4) 初任者研修 薬剤の取扱い(2回)<br>(5) 初任者オリエンテーション   |       |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況   |       |
| ・ 手順書の作成 (☑・無)<br>・ 業務の主な内容：<br>(1) 医薬品の選定<br>(2) 医薬品管理<br>(3) 調剤<br>(4) 薬剤管理指導業務<br>(5) 医薬品情報<br>(6) 地域薬剤師会との連携   |       |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況  |       |
| ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無)<br>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br><br>(1) 医薬品の安全確認のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施<br>【収集方法】<br>① 製薬会社医薬品情報担当者からの情報収集<br>② 医薬品安全対策情報 (DSU) からの情報収集<br>③ PMDA、日本医療機能評価機構のHPからの情報収集<br>【周知方法】<br>①院内メール、文書による配布、医療用端末における「掲示板」への掲示、薬剤部DIニュース<br><br>(2) その他(病院独自で取り組んでいる内容)<br>① オーダリングシステムによる安全管理<br>② 医療上からの必要性から併用禁忌薬を投与せざるを得ない場合の対処<br>「併用禁忌薬取扱い指針」・「併用禁忌薬取扱い要領」の策定 |       |

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

|  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況   | <input checked="" type="radio"/> ・ 無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況  | 年 4 4 回                              |
| ・ 研修の主な内容：<br>(1) 初任医師、看護師に対する各機器操作と安全管理<br>(2) 使用者に対する機器操作と安全管理<br>(3) 機器導入時の操作法と安全管理<br>(4) 使用現場巡回安全管理指導   |                                      |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況  |                                      |
| ・ 医療機器に係る計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )<br>・ 保守点検の主な内容：<br>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置をはじめとする機器について、日常点検、定期点検を院内各部で分担又は部外委託で実施                |                                      |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況   |                                      |
| ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )<br>・ その他の改善のための方策の主な内容：<br>医療端末掲示板から閲覧できる形の安全管理ガイドラインを作成し方針を示しているほか、リンク形式で添付文、マニュアル、研修内容、点検計画等の閲覧ができるようにしている。<br>また、院内メールを用いて随時安全情報を発信している。 |                                      |



(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

|  |  |
|--|--|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況   | <input checked="" type="radio"/> ・ 無         |
| <p>・ 責任者の資格 (<input checked="" type="radio"/> 医師 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>毎月開催される安全管理委員会において、各責任者からの報告受受け、指導を行っている。</p>   |  |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況   | <input checked="" type="radio"/> ( 2 名 ) ・ 無 |
| ③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況  |  |
| <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>製薬会社医薬品情報担当者、医薬品安全対策情報 (DSU)、医薬品・医療機器等安全性情報、PMDA、日本医療機能評価機構の HP から情報の収集と整理を行い、毎月定期的に薬剤師が病棟へ重要点を説明して文書配布、さらに医療従事者全員にメール配信、医療端末掲示板への掲示を行う。イエローレター、ブルーレター等は、患者の投薬歴を調査し、関連診療科へ迅速かつ直接、情報提供を行う。また、医療情報提供会社と契約し、毎日医薬品関連ニュースが配布、配信され、それをもとに情報確認して医療従事者へ情報提供する。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>H28. 9 月までは未承認薬、適応外使用薬 (一部)、院内製剤は倫理委員会病院分科会で、併用禁忌は安全管理委員会で使用の適否を審議後、病院長通知で使用。H29. 10 月より未承認医薬品等評価小委員会で審議の一本化を行い、使用の適否を審議し薬事委員会へ報告、薬事委員会で審議後、病院長通知で使用。</p> <p>H28. 3 月よりオーダーリングシステムで処方入力時にチェックされ、適応外使用は使用できる疾患名のワーニング表示、疾患禁忌は登録病名に対し使用禁止のワーニングが表示される仕様とした。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="radio"/> ・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：(所属：薬剤部, 職種 薬剤師)</p> |  |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況  | <input checked="" type="radio"/> ・ 無         |
| <p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 規程の主な内容：</p> <p>インフォームドコンセントとカルテ記載状況を標準化し安全管理マニュアルの該当部分を改定した。</p>  |  |

|  |     |
|--|-----|
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況  | ☑・無 |
| <p>・活動の主な内容：</p> <p>平成 27 年 4 月からカルテ及び同意書等の効率的な運用を図ることを目的としてカルテ分科会を設立し、以下のことを行った。</p> <p>(1) 既存の説明文書、同意書の見直しを行い医療情報システムへの導入を行い完了している。</p> <p>(2) カルテ分科会委員が定期的にインフォームドコンセントとカルテ記載状況を調査し指導するとともに調査指導内容の報告書を作成している。</p>   |     |
| ⑥ 医療安全管理部門の設置状況  | ☑・無 |
| <p>・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（2）名</p> <p>うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（2）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 事故等に関する診療録や看護記録への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(2) 患者や家族への説明等事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(3) 事故時の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</p> <p>(4) 医療安全に係る連絡調整に関すること。</p> <p>(5) 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び職員の医療安全の認識の状況の確認</p> <p>(6) 医療の安全に係る教育・研修の企画及び運営に関すること。</p> <p>(7) 医療安全に係るマニュアル類の整備に関すること。</p> <p>(8) 医療安全文化の醸成に関すること。</p> <p>(9) 前各号に掲げるものの他、医療安全対策の推進に関すること。</p> |     |
| ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況   |     |
| <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☑・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☑・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p>   |     |

|  |   |
|--|---|
| <p>(1) 高難度新規医療技術の提供の申し出の受領</p> <p>(2) 高難度新規医療技術評価委員会の開催</p> <p>(3) 高難度新規医療技術承認後の実施事例のモニタリング</p> <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p>   |   |
| <p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <p>・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 規程の主な内容：</p> <p>未承認新規医薬品等の定義と申請に必要とする検討項目を「医薬品安全使用のための業務手順書」と「未承認新規医薬品等使用願」、「院内製剤使用願」に記載</p> <p>詳細は現在策定中</p> <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p>          |   |
| <p>⑨ 監査委員会の設置状況</p>  | <p><input checked="" type="radio"/> ・ 無</p> |
| <p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>監査内容》(1) 医療安全部門の業務に関すること。</p> <p>(2) 全死亡例報告に関すること。</p> <p>(3) インシデント・アクシデントの発生の事実、発生前状況に関すること。</p> <p>(4) 医療安全管理に関すること。</p> <p>(5) インフォームド・コンセントの適切な実施状況に関すること。</p> <p>(6) 医療機器安全管理に関すること。</p> <p>(7) 高難度新規医療技術に関すること。</p> <p>(8) 診療録記載内容に関すること。</p> <p>(9) その他医療安全に関すること。</p> <p>監査委員は、上記の項目を口頭で説明を受け実地（医療等の現場）での確認を行う。</p> <p>監査結果報告をもとに是正措置を講じる場合は改善を検討する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> ・ 無 )</p> |   |

・委員の選定理由の公表の有無（・無）

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

| 氏名   | 所属                                       | 委員長<br>(○を付す) | 選定理由              | 利害関係                                | 委員の要件<br>該当状況 |
|------|--|---------------|-------------------|-------------------------------------|---------------|
| 斉藤祐次 | 所沢市薬剤師<br>会顧問                            | ○             | 医療に関する見<br>識を有する者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> | 1             |
| 大館千歳 | 国立障害者リ<br>ハビリテーシ<br>ョンセンター<br>病院<br>看護部長 |               | 医療に関する見<br>識を有する者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> | 1             |
| 島戸圭輔 | 二番町法律事<br>務所<br>(弁護士)                    |               | 法律に関する見<br>識を有する者 | 有・ <input checked="" type="radio"/> | 1             |
| 奈良信和 | 自治体職員                                    |               | 医療を受ける者           | 有・ <input checked="" type="radio"/> | 2             |
| 根本孝一 | 永仁会人間ハ<br>ート病院                           |               | 医療に関する見<br>識を有する者 | <input checked="" type="radio"/> ・無 | 1             |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年394件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年7件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

安全管理委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 病院内における安全管理のための指針の整備に関する事。
- (2) 病院内における安全管理のための医療事故の報告要領に関する事。
- (3) インシデント報告及びアクシデント報告に基づく医療事故防止に必要な方策の策定に関する事。
- (4) 医療事故が発生した場合における対応要領に関する事。
- (5) 安全管理体制の確保のために必要な職員の教育研修制度に関する事。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、医療安全管理に関する事。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）・）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）・）
- ・技術的助言の実施状況

\* 今後の予定

医療安全・質向上のための相互チェック及び特定機能病院間相互のピアレビューを実施予定。

H29年10月18日新潟大学医歯学総合病院からの立ち入り受け入れ

H29年10月30日徳島大学医学部附属病院へ立ち入り

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 「患者相談窓口」の設置

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（・無）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 毎年、医療安全講習会を1年に2回実施。全職員100%の受講を確認している。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

国立大学病院医療安全協議会 医療安全セミナー、医療事故・紛争対応人材養成講座、  
医薬品安全管理責任者研修、MDIC（医療機器情報コミュニケーター）認定セミナー等参加

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

|                        |                                       |
|------------------------|---------------------------------------|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期    |                                       |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

|   |                                      |
|---|--------------------------------------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要<br>病院のホームページにおいて、特定機能病院の役割を説明し、各診療科の診療内容、診療実績を紹介し、地域に向けた情報発信を行っている。 |                                      |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

|  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無   | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要<br>カルテは電算機に登録されており、診療に関する情報はデータベースに集約され、また、システム上で他の診療科に対して紹介することができるようになっており、簡易かつ迅速な診療の連携が可能な体制になっている。 |                                      |